

令和3年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

(1) 都立福生高等学校 学校運営連絡協議会（定時制課程）

(2) 事務局の構成

主任教諭（教務主任兼務）＝事務局長、主幹教諭2名 計3名

(3) 内部委員の構成

校長、副校長、経営企画室長、教務主任、生活指導主任、進路指導主幹、保健主任（主幹教諭・学年主幹兼務）計7名

(4) 協議委員の構成

P T A会長、近隣中学校長1名、地域代表2名、福生市教育委員会、特別養護老人ホーム施設長、若者サポートセンター 計7名

2 令和2年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他

第1回 令和3年5月21日（金）《書面開催》

令和2年度学校運営連絡協議会実施報告

学校経営計画と組織目標、本校の現状と課題等書面による報告

第2回 令和3年10月22日（金）内部委員5名、協議委員5名

学校評価アンケート内容の検討、これまでの教育活動に関する報告と協議

協議委員から教育活動に対する意見

第3回 令和4年2月3日（木）《書面開催》

学校評価アンケートの結果報告、これまでの教育活動に関する取組の結果等書面による報告

(2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他

第1回 令和3年10月22日（金）本校校長会議室 内部委員1名、評価委員2名

内容 学校評価の基本方針の確認、今年度の学校評価の実施に向けた検討

第2回 令和4年2月4日（木）

内容 今年度の学校評価結果等書面による報告

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

(1) 学校評価の観点

「学校運営」「学習活動」「生活指導」「進路指導」「特別活動」「健康・安全」などの観点で実施した。

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

ア	11月	全校生徒	対象：69人	回収：64人	回収率：93%
イ	11月	保護者全員	対象：69人	回収：32人	回収率：46%
ウ	12月	地域・住民	対象：100人	回収：75人	回収率：75%
エ	11月	教職員	対象：8人	回収：8人	回収率：100%

(3) 主な評価項目

ア 学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備、その他（読書活動、体罰指導、ライフ・ワークバランス）

(4) 評価結果の概要

令和元年度から令和3年度の経年変化から学校評価の概要を検討し、評価結果の分析・考察を行った。

ア 生徒の評価

① 全般

福生高校に入学しての満足度はこの3年間80%台後半で推移している。高校生活が将来役立つと考えている生徒は昨年度とほぼ変わらず80%台を維持している。

② 学習

「教科書内容の適性や指導の工夫」の肯定的評価は今年度89%である。設問4の「先生の教え方や教材の工夫」も77%から88%と増加した。生徒は教える側の努力を高く評価している。半面、設問5の「授業に参加して、学習への興味・関心・意欲を持つようになった」は80%から77%にやや減少した。

③ 生活指導・進路指導

「暴力やいじめの防止等、安心して学校生活を送れる生活指導が行われている」の設問は2年前の76%に比べ89%に増加した。「基本的生活習慣、社会性を身に付ける指導」を肯定的に受け止めている生徒の割合は80%程度、進路指導の充実に関する生徒の肯定的評価も84%で高い評価を維持している。

④ 特別活動・部活動

学校行事についてはコロナ禍の影響もあり83%から76%に下落した。部活動の加入率50%に対し「積極的に参加している」と回答している生徒は67%である。

⑤ 健康・安全

健康で安全な社会生活を送るための取組や健康管理への取組に対する肯定的評価は80%程度で推移している。

⑥ 施設・設備、読書活動

施設に対する生徒の肯定的評価は80%台で推移している。読書活動については3年間で生徒の読書活動の評価が約71%から79%に上昇した。

⑦ 体罰指導

体罰や暴言をなくす取組を評価していた割合が2年前は70%後半であったが、今年度84%まで増加した。

イ 保護者の評価

回収率は、昨年度の29%から46%に増加した。昨年度以上に各担任に生徒への声掛けをしてもらった結果である。

福生高校に入学しての満足度や福生高校での生活が将来役立つと考えている割合は昨年度100%、今年度は97%である。その他、基本的生活習慣や社会性を身に付ける指導などの安心した学校生活を送れる生活指導、体罰や暴言をなくす取組や施設に対する肯定的評価はおおむね90%で高い水準を維持している。教科書内容の適正や指導の工夫、学習への興味・関心を持たせる指導の工夫も昨年度より増加している。また、安全安心の学校生活に対する取組や基本的生活習慣の確立に向けた指導も90%台で高い評価である。進路指導における取り組みへの評価は昨年90%から70%に下落したが、再び90%に戻った。

ウ 教職員の評価

「福生高校での生活は将来に役立つ」という項目が昨年の100%から88%に下落した。進路指導の充実度合いが昨年の80%から38%に大幅に下落した。学校の施設・設備に関する評価は昨年の40%から75%まで回復した。

教員が100%肯定的評価をしている項目は全15項目中10項目である。

エ 地域住民の評価

文化祭の項目についてはコロナ禍により2年連続で回答が得られていない。全体的に肯定的評価が増加した昨年度を若干下回る回答結果となり、今後地域に対しての取り組みには効果的にPRをしていく必要がある。

オ ライフ・ワークバランスについての評価

「国や都は働き方改革に取り組んでいるか」という設問に対して、教員と地域の方の肯定的評価は下落した。コロナ禍による影響と思われる。保護者の方の肯定的評価は昨年度の50%から今年度68%に増加した。

(5) 評価結果の分析・考察

ア 学校全般

本校に入学して満足していると考えている生徒・保護者・教員の割合は高い水準を維持しており、生徒や保護者が学校に高い信頼を寄せていると言ってよい。

イ 学習

教員が、教科書選びや教え方の工夫により学力向上のための努力をしているという評価が生徒や保護者から得られているものの、それが生徒の学習への興味・関心・意欲の高まりに結びつくまでには至っていないことが課題である。

ウ 生活指導

安全・安心のための生活指導に関して肯定的評価は生徒も保護者も教員も肯定的評価が上昇しているので、取り組みの維持に努める。

エ 進路指導

今年度この項目の教員の評価が低いのは、休職教員が出たことにより、もともと少ない定時制の教員の指導体制が、さらにひっ迫したことによるものと思われる。このように一つの分掌で人員の減少が生じた場合に、他分掌にも業務を振り分けるなど協力体制を整えておくことが必要である。

オ 行事・部活動

今年度も主要な学校行事の中には行えなかったものがあつたが、ボーリング大会やサッカー大会など新たな行事を追加することで生徒の学校生活へのモチベーションが下がらないよう努力した。

部活動に対する評価は、50%の高い加入率や自転車競技部と野球部の全国大会への出場等成果が出ている反面、アンケートの回答状況に出てきていない。今後は、部活動に関してはHPなど利用して積極的にPR活動を行っていく必要がある。

カ 健康・安全

全体的には高い水準を維持していると言ってよく、これからも、今までの取り組みの維持を心がけたい。

キ ライフ・ワークバランス

ライフワークバランスの必要性や取組の大切さが認識される現代ではあるが、日々目まぐるしく変わる教育改革の波や、コロナ禍による新た対応により、学校における状況は厳しさが増しているのが現状である。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

本校が取り組んでいる「入って良かったと思える学校」を目指して、落ち着いた学習環境を作りながら、基礎学力の向上、生徒一人一人の進路実現、人間性を磨く教育を組織的に推進してきたことについて、生徒・保護者の理解が定着してきている。また、地域連携により、学校周辺の地域の方と学校運営の成果や課題に対して共通理解を持つことができおり、避難訓練時に、地域の代表として講演を引き受けてもらうなど協力も得られている。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

夜間定時制という厳しい条件ではあるが、学校の取り組みに対する成果は様々な形で実を結んでおり、これからも様々な方策を継続して実施することで、さらにより良い学校にしていく。コロナ禍により課題となった「地域に向けた PR」に関して、工夫をしていくことで、より開かれた学校としての姿を示したい。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

各分野の指導において組織的な対応をさらに推進する。

(2) 学習指導

授業規律の向上を推進し、授業改善をこれまで通り進めるとともに、オンライン授業実施時の課題整理、対話的・主体的で深い学びを実現する授業と観点別学習の評価等新学習指導要領に基づいた教育活動を実施する。

(3) 特別活動

部活動の加入率の増加や活動の活性化と継続性を図る。その他、地域や都民に対して部活動の実績の効果的な PR 活動に努める。

(4) 生活指導

日々の努力により、落ち着いた学習環境の確立に近づいた。交通マナーの指導の徹底と、校内でのスマートフォン使用のルール整備等授業規律の確立に一層の努力をする。

(5) 進路指導

これまで通り4年間を見通した進路指導を実施し、低学年での進路意識の向上を図る。面談週間を活用して、個別指導を充実させる。学年や、他分掌にも協力を得られる体制を整える。

(6) 健康・安全

これまで通りセーフティ教室や薬物乱用防止教室を実施し、健康・安全を推進する。必要に応じてコミュニケーションアシスト講座への参加や通級の導入等学校生活への適応に課題のある生徒への取組みを行う。また、スクールカウンセラー等外部機関と組織的な連携を強化する。

(7) ライフ・ワークバランス

今後も計画的な仕事の進め方により業務の効率化を徹底し、ライフ・ワークバランスの実現を図る。また、保護者や地域の方にも取組を伝える努力をする。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 7人

(2) 学校がよくなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう 思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう思わ ない	分からない	無回答
4	2	1				

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

(1) 実績

ア 職員会議 0回 延0人

イ 企画調整会議 0回 延0人

(2) 成果

職員会議や企画調整会議は決められた曜日・時間であるため、参加できる協議委員はいなかった。今後、さらに参加を呼びかける。

8 その他

・地域へのアンケートについては、実施の工夫や説明、実施方法の見直しを含めた検討が必要である。